サラリーマン　市民の視点で

第340話　動物医走る　①

大自然の〝住人〟守る

その日、森田正治さん（46）は、車で野付半島の近くを走っていた。

野付半島は北海道の東端、知床、根室両半島の真ん中にある。大自然の厳しさを象徴するような、海水の浸食で立ち枯れたトドマツの林が広がっている。

「おやっ？」。道の前方に、茶色いかたまりが見えた。野生のエゾシカだった。車にひかれ、動けなくなっているようだ。けがをしている。

森田さんは、シカを自宅まで運んで手当てしようと思った。しかし、乗ってきた乗用車では運べない。どこかでトラックを借りなければ……。

車を降り、積んでいたロープでシカの足を縛ると、道端のポールにしっかりと結わえ付けた。

シカが逃げ出さないように、というわけではない。悲しいことだが、北海道では今でもシカの密猟が絶えない。けがをしたシカは、密猟者たちにとってかっこうの獲物だ。

森田さんは民家を探し、飛び込んだ。事情を話すと、快くトラックを貸してくれた。

「あの程度のけがだったら、野生に戻すことができるかもしれない。何とかしてあげよう」。それだけを考えながら、大急ぎで現場に戻った。

が、ダメだった。ほんの十数分間、離れただけだったのに、遅かった。つい先ほどまで、そこに倒れていたシカは影も形もなかった。

北海道では、シカが交通事故に遭うと、三十分で〝いなくなる〟という。森田さんはこの話を思い出すと、今でも憤りとむなしさが込み上げてくる。

大自然の魅惑あふれる北海道――。キタキツネやエゾシカ、タンチョウヅルなどの〝住人〟たちは、旅行客はもちろん道内に住む人たちにとっても人気の的だ。

しかし、その北海道にも開発の波がジワジワと押し寄せている。それにともなってここ数年、交通事故に遭う鳥や獣たちが急増している。

しかも、こうして傷付いた野生動物を保護し、治療する体制は整備されていない。

「鳥獣保護センター」を設置している自治体はあるが、十分に機能している所は少ない。動物園や獣医らの「好意」に頼っているのが現状だ。

森田さんは根室地区農業共済組合に勤務するサラリーマン獣医。そして、北海道で、傷病動物の保護活動をしている獣医やレンジャーらのグループの一人でもある。

森田さんは、当初はたった一人、全くのボランティア活動だった。〝本業〟との両立は並大抵のことではない。

けがをしたフクロウの手当てをする

サラリーマン　市民の視点で

第340話　動物医走る　②

〝小羊〟に安らぎの場

草の生い茂った広い庭に、手作りの飼育かごや柵（さく）が並んでいる。その中には、犬やウサギなどの小動物からシカやヤギ、アライグマまで二十数種、約百匹の動物たち。

入り口には、「森田どうぶつ公園」と書いた看板が掛かっている。

知床半島の付け根にある北海道・中標津町。このミニ動物園は、森田さんが自宅の庭に作った私設の動物園だ。

近所の人たちがペットを持ち込んできたのが開園のきっかけだった。

「獣医だから動物が好きに違いない」という〝好意〟によるものもあったし、「飼い切れなくなったので……」と説明する人もあった。

またたく間に百匹を超えた。中標津の周辺には動物園がない。「それならいっそのこと」と八五年、自宅の庭を二十四時間開放の無料〝動物園〟にしてしまった。

オープンすると、子供や親子連れが次々と見物に来た。保育園や小学校の先生が、児童を引率して来る団体も増え、年間の入園者は一万人を超えた。

動物園経営者としての苦労は多い。まず労力。朝と夕方、妻と二人で動物たちにえさを与え、ケージ内にたまったふんを出すのが日課。このため二泊三日以上の旅行ができなくなった。

経済的な負担も大きい。牧場から干し草を分けてもらったり、スーパーやレストランで野菜をもらうなどのやりくりをしても、百匹もの動物たちのえさ代は頭が痛い。

森田さんはこの動物園を「命の川のリサイクル運動」だと思っている。ここに持ち込まれる動物たちは、体が弱かったり、嫌われものだったり……。ここは「迷える小羊」たちの安らぎの場とも言える。

だからといって、これ以上動物を増やすつもりはない。このままでは、森田どうぶつ公園がペットの「終末処理場」になってしまう。それに、個人としてはもう限界だ。

それでも、引き受けざるを得ないものがある。動物園を開園したころから、ペットとは別に、車にはねられたシカや傷付いたハクチョウなどの野生動物が持ち込まれるようになった。

一番近い釧路の動物園でさえ、ここから百数十キロ。他に持っていく場所がないのだという。

森田さんは、「野生生物の保護は本来、国や自治体がやるべきだ」と思っているが、そう言っているうちに、〝急患〟たちはどんどん衰弱していく。「とにかく、何とかしなければ」――。サラリーマン獣医の奮闘がまた始まった。

自宅を「動物園」に作り替えた